



令和7年度4月実施 全国学力・学習状況調査の結果

● 問合せ 学校教育課学校教育係 (☎ 23-3185)

小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語・算数・数学、理科の学力調査と学習意欲や生活のことなどを調査する、全国学力・学習状況調査がありました。

調査結果については各学校で分析し、課題を明らかにして具体的な対策を考え、授業の改善や家庭学習をはじめとする基本的な生活習慣の定着につなげます。

1 学力調査 (正答率)

小学校 (第6学年)

	国 語	算 数	理 科
全 国	66.8%	58.0%	57.1%
県	64.0%	54.0%	55.0%
市	61.0%	51.0%	53.0%

● 良好だった項目

国 語：『言語の特徴や使い方に関する事項』
算 数：『図形・測定』
理 科：『エネルギーを柱とする領域』

● 課題がある項目

国 語：『書くこと』『読むこと』
算 数：『変化と関係』『データの活用』
理 科：『生命を柱とする領域』

中学校 (第3学年)

	国 語	数 学	理科 (※ I R T)
全 国	54.3%	48.3%	503
県	53.0%	44.0%	485
市	51.0%	39.0%	469

● 良好だった項目

国 語：『書くこと』『話すこと・聞くこと』
数 学：『データの活用』
理 科：『実験器具の操作など』『大地の変化』

● 課題がある項目

国 語：『言葉の特徴や使い方』『読むこと』
数 学：『数と式』『図形』『関数』
理 科：『考察 (音の性質)』

※ I R T とは、国際的な学力調査に用いられるテスト理論で、500 を基準としています。

2 質問紙 (生活・意識) 調査

小学校 (第6学年)

■ 全国・県との比較で良好だった項目

▷ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全 国	97.2%	2.1%	0.7%
県	97.5%	1.9%	0.6%
市	98.2%	0.8%	1.0%

■ 全国・県との比較で課題がある項目

▷ PC、タブレットなど ICT 機器を使って情報を整理することができる

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全 国	69.3%	25.7%	4.9%
県	63.8%	30.1%	6.0%
市	58.5%	33.7%	7.8%

▷ 家庭学習 (塾などを含む) での勉強時間【平日】

	2時間以上	1～2時間	1時間未満
全 国	24.9%	29.1%	46.0%
県	19.8%	28.2%	52.1%
市	14.6%	24.4%	61.1%

※ 無回答などにより、割合の計が 100% にならないものがあります。

※ 【★】・・・・『あてはまる』は『あてはまる』と『どちらかといえばあてはまる』をあわせた数値

中学校 (第3学年)

■ 全国・県との比較で良好だった項目

▷ 分からないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全 国	77.5%	19.2%	2.8%
県	80.7%	16.7%	2.2%
市	81.7%	16.2%	2.1%

■ 全国・県との比較で課題がある項目

▷ PC、タブレットなど ICT 機器を使って情報を整理することができる

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全 国	63.3%	29.8%	5.7%
県	56.8%	34.1%	7.8%
市	48.1%	39.3%	11.8%

▷ 家庭学習 (塾などを含む) での勉強時間【平日】

	2時間以上	1～2時間	1時間未満
全 国	30.8%	30.8%	38.1%
県	20.5%	28.7%	50.5%
市	15.1%	27.3%	57.3%

学校・家庭・地域の役割

伊万里で育つ子どもたちが、道徳教育などの充実を通して、いじめや差別を許さない心をもち続け、さまざまな困難も、自分で創意工夫して解決する力を高めていることがわかります。

さらに高めるために、学校・地域・家庭の役割が大切です。

■ 学 校 各学校で結果を分析し、主体的に学習に取り組むための方策を全職員で議論し、研修を行い、授業を改善していく必要があります。特に 1 人 1 台端末を活用した授業展開も大切です。

■ 家 庭 『早寝・早起き・朝ごはん』の習慣づくりや『うちどく (家読)』の継続実施など、家族のコミュニケーションをより一層図っていくことが大切です。家族でふれあう時間を多くもつことで、将来の夢や目標、自己実現のためのビジョンをもてるようになり、家庭学習の充実につながります。

■ 学校と地域との連携 コミュニティ・スクールなどを通じて、さまざまな人たちとの交流を深めることで、子どもたちが「人の役に立っている」「貢献している」と実感できる機会を増やし、自己有用感を高めていく必要があります。





↑児童たちが7月に植栽した、シバハギも花を咲かせていました

地域の宝である 希少なチヨウを観察

9月8日、南波多町の大野岳山頂付近で、南波多郷学館6年生の児童16人が『大野岳タイワンツバメシジミ保存会』の皆さんと一緒に、佐賀県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類に分類される希少なチヨウ『タイワンツバメシジミ』の成虫とその卵を観察しました。

この観察会は、地域の自然環境を学び体験することで、地域を愛する心を育てようと、羽化の時期に合わせて毎年行われているものです。

児童たちは、そう簡単には見つけることができないチヨウを、保存会の皆さんから聞いた情報などを頼りに、協力しながら探しました。

結果、3頭を確認し、羽を休める姿をじっくり観察したり、スケッチをしたりしました。



トイレから考える男女共同参画

近年、日本でもオールジェンダートイレ（性別にかかわらず利用できるトイレ）の導入が進められていて、大阪・関西万博では、会場内にある45箇所のトイレのうち、4割を占める18箇所にオールジェンダートイレが採用されています。

性別にかかわらず、誰もが気軽に利用できるトイレを設置することで、LGBTQ+（性の多様性を持つ人たち）への配慮や、女性トイレの混雑が緩和できるなどのメリットがある一方で、入り口や手洗いスペースが男女共用になっているため、盗撮などの犯罪につながる可能性があることが懸念されています。

このトイレ事情を、男女共同参画の視点から考えたときに、何とか配慮をしてもらえないだろうか、切に願う場所があります。それは、子どもたちが多くの時間を過ごす『学校』の男子トイレです。

学校のトイレは、子どもたちにとって、毎日使う大切な場所です。

ところが「小便器を使うのが恥ずかしい」「個室トイレに入ってからかわれるのが嫌」と感じる男子は、少なくありません。

すべての男子トイレを個室にすることで、プライバシーが守られ、安心して利用できるようになり、ジェンダーレスの観点からも、性別や体調、心のあり方にかかわらず誰もが自分に合った使い方ができると考えます。

トイレは小さな空間ですが、より良い学校環境を作るための重要な要素です。個室設置の男女差をなくし、すべての子どもたちが安心して過ごせる場を提供することで、いじめや性別による差別、偏見を軽減する手助けになるのではないのでしょうか。

（伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員）

●問合先

企画政策課男女協働・婚活応援係 ☎23・2115

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

遺跡余話 『何の骨？』

写真①は、牧島保育園の近くにある縄文時代後期の宮ノ前北遺跡で出土した動物の骨です。何の骨だと思いますか。



↑写真①

この骨が出土したときに、調査担当者は「象の足の骨が出た」と思いましたが、すぐに「時代に合っていない」と否定しました。

前月号でも紹介しましたが、縄文時代以前の旧石器時代は、気温が低かったため、日本でもナウマンゾウなどの大型獣が生息していました。ところが、縄文時代になると、温暖な気候となり、イノシシやウサギ、鹿などの小動物が生息するようになりました。



↑写真②

それでは、縄文時代にいた大型獣とは何なのでしょう。そうです。クジラです。この骨は肋骨と思われます。捕獲方法については、海岸に打ち上げられた弱ったクジラを獲ったのか、積極的に沖に出て捕鯨を行っていたかは、よくわかっていません。

また、写真②の骨も出土しました。これは、クジラの背骨（脊椎骨）の一部（骨端板）です。この骨は土器作りに関係するのですが、その話は、次月号に掲載します。